

一九七七年十二月一日第三種郵便物認可

発行所〓社会通信社 発行人〓滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二〇一ポ箱ヶ谷九〇四 電話(03)37714649 FAX(03)29915367
振替〓東京0158431 労金〓東京労金本店No50234

購読料〓月額400円 6ヵ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

社会党大会、清算事業団で決議……………2
東京太田・国労連帯集会の経験から……………3

——情勢においつく主体の努力を——
国鉄清算事業団逆オルグを迎えて……………5
——土浦・つくば地区からの報告——

◇長崎青年共闘からの報告◇

清算事業団闘争にハンストで連帯……………7

資料1 国鉄清算事業団職員の……………8
解雇に抗議する声明(国労)

資料2 国労の仲間たちへ(三・三〇総決起集会)……………8

資料3 女たちの緊急抗議声明……………9

資料4 解雇予告者数……………10

資料5 国鉄清算事業団職員の……………10
再雇用に関する申し入れ(社会党)

資料6 海外からも首切りに非難の声……………11

資料7 さいてください。家族のねがいを……………12

資料8 四月一日以降の態勢確立について(国労)……………12

資料9 不当解雇、生活と権利を守る……………14

闘いに連帯する決議(自治労富山)……………15

チャールズI世の処刑……………15

——衆院選挙で考えたこと(一)——……………18

読者からのおたより……………18

刊旬社社会通信

NO. 435

一九九〇年四月二二日

一九九〇年四月二二日発行

(毎月一日・二二日・三三回発行)

■巻頭言■

社会党大会、清算事業団で決議

国鉄清算事業団は三月三十一日、一千四十七名の事業団職員に二度目の解雇通告を発し、約五百名の仲間を退職に追い込んだ。

四月七日、北海道の仲間から「一〇四七人の指名解雇、絶対許さぬ——勝利の日まで闘うぞ」との新聞が送られてきた。

「国鉄清算事業団から指名解雇された元国鉄職員の数は、全国で一千四十七名、その内訳は、北海道五百二十一名、九州四百八十九名、本州・四国で三十七名です。その家族を含め五千名の悲劇が起きたのです。しかし、追いつめられているのは政府でありJRです。

国労はこの闘いに必ず勝利できると確信しています。この闘争勝利の根拠は、(1)事業団闘争を支援する中央共闘百五十万の出現であり(2)一昨年に発足した『国鉄清算事業団闘争に連帯する会』の全国ネットワークの存在であり(3)この三年間、国鉄闘争を地域で支えた地区労や学者、弁護士や各界各層からの支援の高まりであり(4)世論は日増しに国労の闘いを支持しており(5)そして何よりもJR各社に存在する三万余のストライキをもって闘う国労の存在であり(6)不当にも解雇された一千名の闘争部隊が、自らの生活と生きざまをかけた、怒りの闘争団が全国オルグにかけ回るのであります」

三月に入り、東京でも清算事業団をめぐる雰囲気はガラリと変わった。職場組合員の関心は大きくなった。カンパ額にも表われている。三・三〇集会でのカンパは百六十万円にも達した。大衆運動の高揚に危機感を高めるJR総連は、三月二十八日、(1)清算事業団問題の身勝手な政治的解決策反対、(2)働く意欲のない再就職未内定者のJR採用反対、(3)労使関係を破壊する広域採用反対、等を掲げ集会を開催。世論のひんしゅくを買った。連合でも国鉄清算事業団問題が論議となった。

四月三日から社会党大会では、大会最終日の五日、「国鉄清算事業団職員の再就職問題に関する決議」が決議された。提案県は北海道、福岡、佐賀、長崎。全文は左記のとおりだ。

「国鉄清算事業団職員の再就職促進法が四月一日で失効し、なお一千名を越える就職未内定者が残る結果となりました。

就職未内定者の雇用、生活、人権を守る立場から今後も新たな事態に対応するため、関係団体と十分な協議を進め、早急に円満な解決をはかるための諸対応をすすめます。

そのためにも、政府は、地方労働委員会命令を遵守し、国会審議の経緯、確認に即し、完全雇用の実現にむけてJR各社および公的部門、民間への再就職先を早急に確保するよう責任をもって対処すべきであります。

さらに、国鉄清算事業団のみならず、全労働者の権利、人権を守る闘いを今後も引き続き強化するものであります。

右、決議します。

この決議の意見は大きい。社会党の公式文書にはじめて、政府に「地方労働委員会命令」の「遵守」を求めたからだ。

国労は四月中旬、これからの闘争方針を決めるという。本部を信頼し、下から多様な運動をつくるのが勝利への第一歩。国労が勝てば、日本の労働運動、政治が変わる。この楽しみを目標に全力をつくし合おう。

東京太田・国労連帯集会の経験から

——情勢においつく主体の努力を——

三月三日、東京太田区で「国鉄闘争に連帯する太田の集い」が開かれ、三五一人が参加した。

三五一人という大した数ではないように思われるかもしれないが、太田区でこの種の集まりとしては、選挙の演説会をのぞいては七〇年安保当時以来ではないかといわれる結集である。以下、本集い実行委員会事務局でお手伝いさせてもらった一国労組合員の立場で報告をさせていただく。

交流集会が出発点

私自身は太田に転居して間もない新参者なので、あまり生イキなことはいえないが、東京の他区とくらべ国労支援の運動がひろがる主体的条件が太田にあるとは思えない地区だった。

清算事業団闘争としても、先輩の佐久間忠夫さん（新橋清算事業団）が区内をまわり「連帯する会」拡大に努力していた他は、運動らしいものはなかった。だが佐久間先輩の努力などを土台として昨秋から空気が変りはじめた。一つは太田区職労（組合員七千人）の国労オルグ団の受け入れである。労組執行部と国労役員の交流が、思いきって国労組合員の区職労全組合員への直接の訴えへと切りかえたことによつて、太田区職労の国労支援のとりくみは一気に大衆的となった。国労側も役員だけでなく職場活動家が地域に出る上で大きな刺激となった。

二つは、社会党地域党員が中心の市民運動団体のバザーに、広域採用で近くに住む国労組合員、家族が参加したことである。地域の人にとつて、国労の存在はもちろん、何がおきているかは全く知られていなかった（これは国労の責任）。その国労の組合員がバザー会場で、家族ぐるみでやつてきて、ジャガイモを売りながら終日「一千万署名」を集めているのを見て、何かたいへんなことになっていることだけは感じてもらえたらしい。いずれにせよ、地域党員、市民運動の人たちにも理解してもらうきっかけとなった。さらに昨年暮の社会党太田総支部大会では国鉄闘争支援の決議も採決された。

そして、この地域党員の人たちが、総支部大会決議をしたのだから、次は国労を呼んで交流会をしようとしたことが、三・二三集会の直接の出発点だった。私たち区内在住の国労組合員と相談するうちに、話が大きくなり、実行委員会結成にむけ各方面に打診したら意外に反応がいい。そこで、集会実行委員会呼びかけ人もちゃんとした人になってもらうと、区内在住の経済学者伊藤誠先生におねがいがしたところ、よろこんでひきうけていた。社会党総支部は後援と呼びかけ人をおねがいがしたが、いろいろな事情があり機関的にはできないことになった。しかし書記長の区議さんは賛同人になってくれた。事務局長は組織をあげて国労支援にとりくんでいる太田区職労から出してくれた。

地域の人たち、区職労とならびもうひとつ大きな支えとなったのは都職労清掃支部、東水労、全国一般、ゼネラル石油、国労など中心に二年近く交流やいろいろなとりくみをつ

みあげてきた南部ブロック労研センターの人たちだった。みんな心よく協力し、こぞって実行委員会に参加してくれた。

連合傘下の組合も参加

こうして、集会実行委員会を旗上げし、三月二日、一四日の二回開催したが、各々一九二〇団体、三〇人が出席した。一回目は伊藤誠先生から問題提起をうけ、二回目ときは北海道・九州の清算事業団家族会の話をきき学習の場となった。実行委員会として大森、蒲田の両駅頭で街頭宣伝もした。六〇年安保から活動していた地域党員からは街頭でステッカーをはりめぐらそうという提案がされ、「お父さんの仕事を返せ」「夫を職場に戻せ」「JRは安全と人権を守れ」という三種類を作った。しかし、公安の動きも含めかなり緊迫してきたので、ガサ入れなど配慮し職場だけにはることとした。久しぶりのステはりができなくてどちらかといえは年輩の方が残念がった。

生活文化センターという市民団体は心よく事務所や宣伝カーをかしてくれた。婦人会議太田支部も、二月に北海道、九州の家族会を呼んで交流会を開いてくれたが、事務局長さんはじめ幾人かの人は口コミで地域の賛同人を何人もつってくれた。全電通出身で長いこと区労協議長をつとめた社会党の区議の方は、自ら労組オルグにまわってくれたし、自分の掲示板にステッカーをはってくれた。

地域の有力党員の皆さんにつれられて、我々国労の居住者が多くの労組をまわって一番うれしかったのは、「全労協」志向組合以外の「連合」傘下の組合からも続々と参加の意向が伝えられたことだった。太田教組、全通太田支部、東交五反田支部、平和島競艇労組が機関として参加してくれた。

不安の中の集会は大成功

こうして実行委員会は全電通や全労連系をのぞく区内有力組合のほとんどと社会党系諸地域団体の結集をみるこができたが、やっかいな問題も生じた。全く同じ日と時間に太田区労協中心の国労支援集会が急にもたれることになった。どちらかといえば全労連系の強いところだが、国労を中心に調整の努力がはかられたものの残念ながらうまくいかず、いくつかの組合は「両方成功させる」という立場のとりくみとなった。なにしろ同じときに区労協集会というのだから、いったいどれくらい集まれるのか、いささか不安になったのも事実である。

こうして二三日をむかえたが、心配をふきとばすように会場は超満員となった。北海道と九州の清算事業団組合員と家族の訴えを聞く者はポロポロと涙をこぼしていた。「連帯する会」山下事務局長の緊迫した情勢報告、社会党区議会議員、清掃労組、全国一般全学研労組、全通太田支部、東水労、全造船東芝アンベックス、平和島競艇労組、地域代表、太田区職労の各代表はみんな怒りをこめた決意を表明した。八時四五分の終了までほとんど帰る人はいず、最後に福石事務局長まとめと国労新橋支部酒田委員長の団結ガンバローで終えた。司会を担当した婦人会議太田支部事務局長さんが呼びかけた会場カンパには一八万五六二〇円も集まった。これにはみんなびっくりした。千円札が文字通り舞っていた。

国鉄闘争勝利の一点で

このように集会には、全労協か連合かを問わず、ほとんどの労働組合と、社会党都議、区議をはじめとする社会党地域党員と、多くの市民団体、様々な立場のグループが、国鉄闘争勝利の一点で集まることができた。

これは何といっても清算事業団闘争がつくりだした情勢のおかげだ。国労があくまでも正当な要求を下ろさず、七二時間ストをうちぬき、二〇日には千六百人に解雇予告が通告され、イヨイヨ敵の凶暴な本性があらわになり、家族ぐるみでたちむかおうとけんめいの努力が強められるという三月闘争は、あきらかに共闘の面でも飛躍的な前進の条件をつくれたのである。だからこそ、すくなくとも国鉄闘争にかんしては主体的力量は都内でももつとも弱い太田の地域でも、ヤル気で動く実行委員が三〇人もいれば、ここまでやれたのだと思う。

国労にも自己批判が必要

しかし、問題はよかったですまされないということだ。国労の我々の自己批判が必要だ。実行委員会を熱心になつてくれた市民運動の一女性党員はこういった。「ふだん国労の人の姿は地域ではちつともみえない。だからはじめ何で国労を支援しなくてはいけないのかピンとこなかった。ふだんからもっと地域に出て活動していれば、もっと支援する団体もふえたらうし、ここまで追いつめられなかったのではないか」と。この点はほんとに反省しなければと思う。また「大国主義が残つてる」といわれるように、悪い企業内闘争のクセはぬけていない。いくらでも支援してくれる仲間がまわりにいるのに、そこに出かけようとしないで、国労内活動家だけに通用する言葉で自己満足しているような弱さを本気で克服していかないと、これからの困難な闘いはとりくめないと思う。

また、国労のたたかいがたんなる企業内少数派組合のそれではなくして、日本の民主主義と権利を守る役割を与えられているということは、地域に訴えてみて、どれほど多くの人々が、立場をこえて寝食を忘れともに行動してくれるかを、組合員が自分の眼で確かめることによってわかつてくるのだとも思う。そういう体験ぬきに、いくら階級的労働運動を叫んでも、身体はドブブリ企業内につかたままになつてしまふのではないだろうか。

三月闘争をギリギリまで闘うなかで、あきらかに闘いの質は飛躍した。我々が感じる以上に国労外はそううけとめている。太田のささやかな経験からでもそういえる。問題は我々国労組合員が、この情勢にこたえ「連帯する会」の組織化などをつうじ、どう社会党、労組、市民運動の良心とガッチリ手をむすび、新たな幅広い陣型をつくり出せるかである。まちがいなしに正義の闘いであるこの闘争でやれることを全てやりつくせば、全労協運動の展望も切り開かれる。

(国労 栗原洋美)

国鉄清算事業団逆オルグを迎えて

——土浦・つくば地区からの報告——

三月二六日、北海道・九州から上京した国鉄清算事業団の逆オルグ二名を迎えて茨城県

の土浦・つくば市を中心とした職場廻り、そして夜は土浦市内において激励交流集会を行いました。

土浦では昨年一月に「今JRで何が起きているの?」として、北海道から広域移動に応じた仲間を囲んで集会を開催したり、その時々を上京した清算事業団の仲間と交流を行なっていました。こうして職場廻りを行なうのは一年振りのことです。

最初に職場に入ったのはつくばの国土地理院でした。要請をうけてから当日まで日曜日をはさんで三日ほどの期間しかなかったにもかかわらず、全建労筑波地本主催の昼休み職場集会には、他の研究所の組合員も含めて一三〇人余りの仲間が集まりました。集会では清算事業団の仲間の訴えに、普段の集会のような私語もなく、ピンと張りつめた空気が感じられました。このような緊張した気持ちは一〇年以上も前の労資関係が厳しかった時代（建設マル生Ⅱ当時の国鉄マル生に先駆けた六〇年代から七〇年代にかけて、建設省を現業官庁から政策官庁へ変える大合理化と組織潰し政策によって組合は分裂させられ組合員は二六、〇〇〇人から四、七〇〇人まで減少し、職場はすさんだ状態となった）を想いおこさせるものがありました。カンパも同時に廻しましたが、昼休みでありお金を持ち歩かないにもかかわらず三万円以上も集まり仲間の関心の高さを示しました。

次は土浦の食糧事務所へ、全農林の分会長・書記長に迎えて頂きました。そして役員だけではと、職場に入り執務中にもかかわらずマイクで清算事業団の実態を訴えさせてもらいました。訴えに最初は下を向いて仕事をしていた仲間も、だんだん頭を上げて、じっと聞き入るようになりました。

最後に自治労竜ヶ崎市職を廻り、オルグの仲間は休む暇もなく夜の激励交流集会に参加しました。労働組合の選別が進む中、清算事業団の仲間の労働者の琴線に触れる訴えは、それを乗り越える大きな力を持っているように思いました。

集会では、改めて二人の清算事業団の仲間に話してもらい、地元の国労土浦分会からも本務の仲間の実態報告、そして感想を含めて交流も持ちました。

（国労土浦分会） 私はJR東日本に採用されたが、行かされたところは増収対策室。やることといえば駅の椅子のペンキ塗り、ゲリラ対策と称して駅の警備をやらされたりした。何回か飛ばされ今は駅のそば屋をやっている。ホームでのそば屋はふきさらしで、夏は暑く冬は寒い、なんとかしろと要求しヒーターをがち取った。そんな中で国労だけが俺たちを守ってくれると二人の仲間の復帰をがち取った。

（地理） 清算事業団の仲間から本務の仲間の突然死が出ていると言われたが、地理でも最近二人の仲間の突然死が出ている。一人は四六歳の研究官で海外出張へ出かける電車の中で、一人は三一歳の仲間で土曜日に残業で遅く帰ってそのまま亡くなり、翌週が出張で出張先に来ないとの連絡を受け寮に行行ったところを発見された。彼は心臓の病気があって要注意とされていたにもかかわらず週六〇時間も超勤させられていた。こうした交流を職場に返していかないと自分自身も働き続けられなくなる。

（電通） 国労の仲間もすごい差別だと思ふ。自分は千葉の白井無線という職場で闘ってきたが職場が廃局となり遠いところに飛ばされた。資本は闘えば損をするという気持ちを持てつけようとしているのだと思う。この指名解雇を許せばかならず自分のところにくる。

職場の仲間に連帯する会への加入を進めている。

(プリマ) プリマ労組分裂一七年になる。プリマではどんなに一生懸命働いても賃金差別を受ける。プリマもすべての労働裁判で勝利し最高裁まで持っていて和解に持ち込んだ。国労は今や少数組合というのがプリマはもっと少数。第二組合はゼンセン同盟に入ってプリマ労組壊滅宣言をし攻撃を仕掛けている。

オルグに來た清算事業団の仲間の腹はすわっていて、むしろ私達の方が「四月一日以降はどうやって食べていくのか」「四月一日以降の闘争体制は」と心配しています。マスコミは四月一日以降の報道はなく黙殺の姿勢です。私達は自らの力で激励・交流し、ともに闘う仲間の和を広げて行きましょう。

(つくば市 大井信三)

◆長崎青年共闘からの報告◆

清算事業団闘争にハンストで連帯

三月二四日―二五日、国労長崎県支部青年部は長崎駅前高架広場でハンガーストライキを行いました。これに連帯して、国労支援長崎県青年共闘会議は、連帯のハンガーストライキと、「国労支援青年共闘決起集会」と、駅頭座り込み、中央行動上京団送り出し集会を開催しました。

ハンガーストライキ突入集会には、各地区労青婦協の仲間と長崎地区の仲間約七〇名が参加し、各団体からの激励を受けてハンストに突入しました。

その後、ピラ配布、街頭宣伝、座り込みの行動を行い、各地区や単組の仲間から職場実態の報告などテント内交流を行いました。

翌日も、ピラ配布、街頭宣伝、座り込みの行動を交替で行いました。このハンスト中に多くの通行人の方から激励の声や、カンパが寄せられ、徐々にではありますが、私たちの主張の正しさが大衆の中に広がってきていることを感じます。

ハンストには、自治労、全通、全電通、全農林などの仲間が参加しました。

また、二五日一六時から開催した「国労支援青年共闘決起集会」には、各地区から街頭宣伝をやりながらさらに結集し、約二三〇名が結集し、不当な解雇攻撃に対して最後まで闘う決意を固めました。

集会では、親の「国鉄労働者の雇用と人権を守る県共闘会議」、社会党県本部からも力強い連帯と激励のあいさつをいただきました。

また、三名の社会党国会議員からも連帯のメッセージが寄せられました。最後に「国労の仲間にかけられた攻撃を、自分にかけられた攻撃と受け止め、不当解雇撤回までともに闘いぬく」という決議文を採択し、JR長崎支店に向かって、怒りのシュプレヒコールを行い、駅構内コンコースに整然と座り込みました。その後、ハンストの集約と参加者の感想、国労本部青年部への大きな檄布を上京団に託し、国労支援青年共闘会議として送り出す。二二名の仲間を激励し、最後に森青年共闘議長(社会党県本部青対部長)の団結ガンバローでこの日の日程を終えました。

資料(1) 国鉄清算事業団職員の

解雇に抗議する声明 (国労一九九〇・三・三一)

国鉄労働組合及び組合員・家族は、今日この日を永劫に忘れることはできない。

国鉄清算事業団労働者は、八七年四月のＪＲ発足に際し採用を拒否（事実上の解雇）され、三年後の四月一日に再び解雇されることになった。

この間、ＪＲ各社の採用拒否は国労組合員であることを理由とする差別事件であると、全国一七七地方労働委員会から「八七年四月（ＪＲ発足時）に遡って採用されたものとして扱え」との命令を受けている。この事実は重大である。ＪＲ各社側が労働者の基本的権利を侵害し、社会正義に反する不正行為があったと糾弾され断罪されているのである。

この命令に従えと中央労働委員会から勧告され、世論も厳しく要求しているにも係わらず、政府はじめ関係者は「係争中」を理由に、法律に基づく命令に従った措置をとらず、そればかりか国鉄清算事業団は、この命令に従って「地元ＪＲ」に採用を希望する労働者を「働く意志のない者」と烙印を押し、解雇を正当化しようとしている。政府も「一人も路頭に迷わせない」「組合所属による差別はあってはならない」との政府公約を公然と反故にしようとしている。

これらの行為は、白昼堂々と法律違反を犯し、社会正義を踏みにじる暴挙であり、厳しく批判・糾弾されなければならない。

労働者と家族の、人間としての尊厳と人権は、どんな事があっても守られなければならない。それが民主主義の原則である。しかし、本日の解雇通告は民主主義への重大な挑戦である。わたし達は、この愚行を断じて許すことはできない。強く抗議する。

政府と国鉄清算事業団、ＪＲ各社は労働者を解雇しただけで問題が解決したのではないことを再認識すべきである。根本的な解決のために、中央労働委員会場でわれわれとの協議に応ずるべきである。

国鉄労働組合及び組合員・家族は、解雇の撤回と労働委員会命令に従って地元ＪＲへの採用・職場復帰を勝ち取るまで、一致団結しどんな困難をも克服し闘い抜く決意である。

資料(2) 三・三〇総決起集会

国 労 の 仲 間 た ち へ

夜、国鉄清算事業団、国労組合員のことを思うと、もう眠ることはできない、眼を閉じることができない、そして熱い怒りと涙がこみあげてくる。

時は一年、また一年、さらに一年とすぎた。国鉄労働者と家族から笑顔を見なくなつてから、はや三年の月日が流れた。そのなかで、国鉄労働者の生命（いのち）がまた一人消えた。

川合浩司さん、二九歳。行方不明になつて三ヶ月。彼は解雇通告がなされた前日、北海道後志管内倶知安町で遺体で発見された。ＪＲ採用を国労組合員というだけで拒否された川合さん。彼は、「就職先を求めてどこを回つても、断られるのがつらい」と遺書の手紙が届く昨年一二月末、札幌市内に住む姉に電話をし悩みをもらした。

まったく世は逆様だ。みんな頭で歩いている。利潤原理、競争原理が人間を支配する。しかし、国鉄労働者の心は、清算事業団管理者の心を揺さぶった。

川合さんの死に抗議する清算事業団の仲間の前で、助役が「清算事業団というものがな

かったなら、こういう不幸な事態は生まれなかった」「自殺されるまでの境遇に追い込まれるとは！」と涙で声をつまらせた。

清算事業団組合員の家族はいう。「私たち家族は、夫達の苦しくても団結している姿をみて、お父さん達についていくだけではだめなのではないか、家族会でできることはないのか。生まれて五ヶ月の子供を、おばあちゃんに預け、東京への中央行動に参加。それぞれの会員が集会への参加等、団結と闘う自信が一段と強まった」と。

子供たちも、「お父さんが大すぎる駅の仕事をしなくなってから、もう三年。やさしいお父さんなのに、どうして仕事をさせてくれないのだろう」「みんな、みんなしあわせになれるよね、お父さん」と、小さな胸をふるわせる。

国鉄闘争は日本労働運動、政治のゆくえを決する。政府・自民党、財界の戦略は、政治と職場の安定帯づくり。日米構造協議、参・衆院選挙でも明らかのように、自民党の支持基盤の動揺ぶりは明らかだ。

こうしたなか、国労が勝てば、政府・自民党の推進した「臨調・行革」「戦後政治の総決算路線」は全面的に破綻する。JR資本の労務政策は壊滅し、JR総連は一夜にして解体、国労が多数派となる。自民党の農村から都市への支持基盤の乗りかえという戦略もくずれさる。国鉄闘争が人権と民主主義闘争の焦点というゆえんだ。

一九八七年二月一六日から三年の間、国労は闘いの拠点をつくった。連戦連勝の地労委闘争、国鉄闘争支援共闘会議、清算事業団闘争に連帯する会、「分割・民営化」に反対する闘い以降の一千ヶ所をこえる地域共闘、そして何よりも共闘の仲間たち。

弁護士、学者、文化人の応援ぶりはかつてない。全国の弁護士約一割をはるかに超す一、五六五名が国鉄闘争に連帯を表明した。北海道、鹿児島では大学の教授が国鉄闘争への支援に名を連ねた。世論は国労にある。国労の闘いは四月一日以降もつづく。

国労よ、働く者の権利を歌いたたえよ。牧歌的な感傷を止め、やさしき笛となるな。日本働く者のトランペットとなれ！

吹け、鳴れ、響け……。日ごとに吹け、鳴れ、轟け。最後の迫害者の逃げ去る日まで。ひとすじにこの方向において歌え。わたしたちも国労とともに進む。

一九九〇年三月三〇日

九〇春闘懇談会

国鉄闘争支援中央共闘会議

資料(3) 国鉄清算事業団、解雇は決して許さない！

わたたちの緊急抗議声明

私たちは、三月二〇日に行われた清算事業団就職未内定者に対する解雇予告に深い憤りをもって抗議します。

先の三月八日、国際婦人デーに発表した「私たちの共同声明」において分割民営化に伴う旧国鉄・JRにおける人権侵害、女性差別の早急な是正と清算事業団問題の全面解決をJRと国に要請しました。そして清算事業団で行われる就職斡旋は形ばかりのもので、その内容は生計を維持するには程遠いもの、また、女性差別に満ちたものである実態を訴えました。

分割民営にあたり国会と中曽根元首相は「組合による差別はしない」「一人も路頭に迷わせない」と言明しました。にもかかわらず、JRへの不採用＝清算事業団へのふりわけそのものが「国労である」を理由とする組合差別にもとづくものであることは、七〇本以上に及ぶ地労委命令における組合側完全勝利で明らかになっています。こうした解雇予告は、国の最

高議決機関である国会、当時の行政最高責任者の言明をホゴにするだけでなく地方労働委員会の救済命令をもないがしろにすることでも、決して許すことはできません。
このような不当な行為が許されるならば、日本には憲法が保障する思想信条の自由や労働者の団結権はないものと言わざるを得ません。

私たち、女性がいきいきと生きる社会をめざす者にとって差別と人権侵害は許すことのできないものです。解雇予告を受けた女性の中には電話交換で頸腕症となった人や夫婦ともに解雇になった人、老いた両親を抱えた人、夫を病気で失い子供を抱えて働く人など、働く女性にとってその痛みが胸に響きます。又、二度にわたる解雇攻撃を受けた家族の怒りは察するに余りあります。

国の政策履行過程での不当労働行為、差別と人権侵害そして解雇は日本の民主主義を問う重大事です。

心ある女性たちの名において、この解雇予告に強く抗議し、国とJ.R・清算事業団に労働委員会の救済命令を尊重した雇用確保に向けた速やかな全面解決を要請します。

一九九〇年三月二十六日

〔連絡先〕 千代田区丸の内一の一の四 国労会館
TEL 〇三(二三一) 四〇四五

資料(4) 解雇予告者数

国 労	
北海道	四五一名
釧路	八八名
旭川	二九一名
札幌	五四名
青函	一八名
本州・四国	二五名
九州	四八九名
門司	三八五名
大分	八名
熊本	二四名
鹿児島	七二名
合 計	九六五名

全 体	
北海道	五二一名
本州・四国	三七名
九州	四八九名
合 計	一〇四七名

国 労	九六五名
全 動 労	六四名
千葉動労	九名
その他	九名
合 計	一〇四七名

未 内 定 者	一〇三四名
内 定 者	一三名
合 計	一〇四七名

※本州二五名内訳

仙台六名、秋田一名、東京二名、静岡一名、近畿三名、岡山一名、
四国一名

資料(5)

国鉄清算事業団職員の再雇用に関する

申し入れ (日本社会党、一九九〇・三・三〇)

以上

国鉄清算事業団職員の再就職促進法が、四月一日失効するにあたり、就職未定者の完全雇用を実現するため、以下のとおり申し入れる。

記

一、国鉄改革にとりまう、関連諸法案の施行以来三年が経過し、とくに国鉄清算事業団職員の新就職促進法が明後日(四月一日)をもって失効する。現在約一五〇〇名の就職未定者の再就職対策に対し残されたわずかな期間ではあるが、全力をあげられたい。

一、政府は国会審議の経緯、確認に即し就職未定者が路頭に迷うことがないよう、完全雇用の実現にむけて、引き続きJR各社および公的部門、民間への再就職先を早急に確保されるよう責任をもつて対処されたい。

一九九〇年三月三〇日

日本社会党中央本部 中央執行委員長 土井たか子

書記 長 山口 鶴男

内閣総理大臣 海部 俊樹殿

資料(6) 海外からも首切りに非難の声

1 日本総領事に要請(豪州鉄道労組)

オーストラリア鉄道労組はITFの決議をうけて三月二三日、日本総領事に対してラルフ・テイラー書記長名で以下のような要請を行った。



日本総領事殿

旧国鉄労働者千六百名が再就職先を見い出せず、一九九〇年四月一日をもって、国鉄清算事業団によって解雇されるという事態に対し、われわれが重大な関心を抱いていることを海部俊樹内閣総理大臣にお伝えいただくよう要請するものです。

われわれは、このような大量解雇によって生ずる最悪の事態を回避するため、国鉄清算事業団とJR各社が国労と真剣な話し合いを行うよう首相に対し強く求めるものである。

われわれは、貴国政府がJR各社と国労間の労使紛争について公正な解決をはかるため、ILO条約および勧告に従ってご指導されますよう要請するものです。

オーストラリア鉄道労働組合

中央本部 ラルフ・テイラー書記長

2 プラハから世界労連が抗議声明

海部俊樹内閣総理大臣殿

一九九〇年三月二八日

プラハ・チェコスロバキア

世界労連本部は、日本政府の当初の公約及び労働委員会命令に反して、日本国有鉄道清算事業団当局が、一、五八二名の職員に対して一九九〇年三月末をもって解雇終了を通告したとのニュースに深い憤りを感じざるをえません。

世界労連本部は、雇用と労働条件を守るために闘っている日本の鉄道労働者と労働組合に連帯を表明するものである。

世界労連本部は、全世界二億一、四〇〇万組合員を代表して、清算事業団当局及び日本政府に対して雇用終了の通告を取り止めるとともに、関係職員の雇用を継続するよう強く要請するものである。

世界労連本部

3 国際運輸労連(ITF)が決議

国際運輸労連（ITF）は、三月二〇、二一日にロンドンで執行委員会をひらき、ITFとしての決議を採択した。

決議は、一五〇〇名以上の解雇予告が行われれば、大量の解雇となり、最悪の事態を避けるため、「清算事業団職員の雇用確保を求める決議案」として、JR各社・清算事業団が労働組合と真剣に話し合いを行うこと。政府は事態打開のために努力をし、指導力を発揮すべきであること。という内容の決議となっている。

世界八六ヶ国、約五〇〇万人の運輸労働者を結集するITFでの決議は、問題が国際的にも明らかにされ、不当な解雇に対する国際的決議として重みのあるものである。

国労本部電送 一九九〇年三月二二日

資料(7) きいてください 家族のねがいを

結婚してちょうど三ヶ月めの二月一六日。夫は清算事業団行きになりました。この時私は妊娠三ヶ月。そして、不安の中で長男を出産しました。

そして今、二人目のこどもがやはり三ヶ月めです。二度も妊娠三ヶ月目での解雇通告です。二歳半になる長男の成長とともに三年目を迎えました。

長男との朝の会話は「おはよう」から始まり「おとうちゃんはどこへ行くの?」「お仕事。マー君は保育園、おかあちゃんもお仕事。みんながんばっていいこうね」「マー君はおとうちゃんと保育園へ行くんだよ」です。

そして一日が終わり保育園から電車に乗って家に帰ってきます。長男は駅のおじちゃんが好きです。電車が停まると「駅のおじちゃんにバイバイする」と言って逆のホームの車掌さんに力いっぱい手を振ります。車掌さんが手を振ってくれと「バイバイしてくれだね」と大よろこびです。改札でも同じです。

「おとうちゃんも駅のおじちゃんだったんだよ」と二歳半の息子に話しても理解はできません。私の夫は駅のおじちゃんの仕事をしていました。夫から仕事を奪ったJRを私は許せません。長男が駅のおじちゃんではなく駅のおとうちゃんと話せる日、又、生まれてくる二人目の子どもにも、ただの「お仕事」でなく「鉄道のお仕事」と言える日まで、みなさんとともに頑張ります。

(清算事業団隅田川支所家族 清田京子)

資料(8) 四月一日以降の態勢確立について (国労)

「闘いの基本」

(1) 「全面解決要求」の実現にむけて、中労委の場における全面一括解決をめざし闘う。
(2) 当面、法律91号との関連から採用差別事件の先行解決を優先させ、ここを突破口にして一連の不当労働行為事件の全面一括解決をめざす。

(3) 三月段階において、基本的な解決の筋道を明らかにさせることを目標に組織の総力を傾注した闘争を展開する。その為にも、四月以降の態勢確立に万全を期すこととする。

① 清算事業団の職場もJRの職場も要求の実現にむけて一体となって闘う。

② JR職場の組合員は、一連の不当労働行為に対する闘いと労働条件改善の闘いを清算事業団と一体のものとして闘う。

③ 清算事業団組合員は、職場討議を深め自らの生活対策を含め粘り強く闘う為に態勢を確

立する。

▲生活対策▼

(1) 生活対策の基本は、組織的な自活態勢とする。

① 基本は自活として、自活の方法は一人ひとりがアルバイト先を確保する。

② 本州への一定期間の派遣による物販活動を行う。

③ アルバイト及び物販活動を通して、オルグ・カンパ活動、「連帯する会」の会員拡大運動を行う。

④ 全国統一事業については、早急に検討する。

(2) 体制づくり

① 北海道・九州は、各地方本部ごとに地理的条件及び地方特情を考慮して、〇〇名程度での班編成を行う。

② 組合員の所属する支部・分会（再編成も含む）を明確にする。

③ 班単位に地元で活動する者、一定期間他府県に常駐し活動する者に区分する。この場合ローテーションも考慮する。

④ 全国的物販活動

イ、原則として、北海道からは東日本の各地方本部へ、九州からは西日本の各地方本部への派遣とする。

ロ、東海の各地方本部へは、状況に応じて入ることとする。この場合、九州は名古屋地本、北海道は静岡地本とする。

ハ、各地方本部（支部を含む）に、一定の期間常駐し活動を行う。

▲カンパ活動▼

(1) 組織内の自主カンパ活動を取り組む。

① カンパ額は、任意とし月単位に継続して取り組む。地方本部ごとに集約し本部へ送金する。

② 専従役員は、毎月一定額のカンパを行う。

(2) 他組織及び街頭カンパなど広範なカンパ活動を取り組む。

(3) カンパの最終集約は、中央本部が行う。

① 「特別生活対策基金」として運用する。

② このため、「国鉄清算事業団特別生活対策基金互助会」（仮称）の規則を別に定める。

▲「連帯する会」の会員拡大▼

(1) 15万人の目標達成にむけて全力をあげる。

(2) 会費の一部を実情に応じ生活対策費として交付できるよう努力する。

▲想定される諸問題について▼

(1) 「解雇予告手当」が出された場合の対応。 受取を拒否する。

(2) 退職金に対する対応。 受取を拒否する。

(3) 社宅・寮の明け渡し請求等が行われた場合。 明け渡しに応じない。

(4) 健康保険に対する対応。 現在治療中の者は継続診療の手続きを行っていく。他の者は国民健康保健で対応するようにしていく。

(5) 雇用保険に対する対応。 給付金を請求する。この場合仮給付が受けられるよう取り組む。

(6) 「解雇通告書」が出された場合の対応。 受取を拒否する。尚、苦情処理との関連も検討する。

△組合員資格について▽

(1)引き続き組合に残って闘い続ける者は、国労組合員とする。参考〔規約五条〕組合は、組合員名簿に登録された者をもって組織する。

(2)組合費の扱い。当面、現行通りとする。※第54回定期全国大会決定。

清算事業団にいる組合員が、他へ就職した場合の扱い。

①就職先に労働組合がない場合。イ、国労組合員とする。ロ、所属機関の扱いは、最寄りの分会を基本とし、状況に応じ支部・地方本部直轄もありうる。

②就職先に労働組合がある場合。当該の労働組合に入ることを基本とする。

資料(9) 自治労富山県本部一万人総決起集会

不当解雇、生活と権利を守る闘いに連帯する決議

労働組合運動において「一人の首切りも許さない、労働者の権利は一步も譲らない、一切の差別を認めない」というのは、たたかひの基本にかかる最も大切な課題である。

この課題をあくまで堅持し、様々な組織的困難を抱えながらも、長期にわたって粘り強くたたかい続け、勝利に向かってたゆまぬ努力を続けている仲間とその家族のみなさんに、われわれ自治労は、県本部「一〇、〇〇〇人総決起集会」の総意をもって、心から連帯と激励のあいさつを送り、組織をあげて支援・共闘を強化する決意を表明する。

国鉄の分割・民営化にともなうJRへの採用を差別し、七千名余の職員を清算事業団へ放りこんだ政府・JR・国鉄清算事業団当局は、いままた、事業団に残る千五十一人の職員を四月一日付けで解雇すると通告した。これは、「一人も路頭に迷わせない」という総理大臣答弁や国会決議のみならず、一連の採用差別に対してすべての地方労働委員会が「八七年四月一日に遡ってJR職員として採用したものととして扱え」との命令を出しているのを無視し、踏みこむ憲法・不当な暴挙である。

また、日本抵抗器製作所においても、組合組織への支配介入のあと、八七年一二月末に組合つぶしを目的とした八六名の大量指名解雇が行われるなど、労働者の権利を否定し、その生活を根底から突き崩す攻撃が続いている。

こうした攻撃は、利潤のためには労働者の生活・権利をかえりみようとしない独占資本の姿勢を象徴するものであり、また「行革」攻撃の具体的現れといえる。このことは、われわれ自治体労働者がたたかっている「地方行革」の本質と同様のものであり、こうした仲間たちと連帯し共にたたかう意義はここにある。

争議の多くは、資本・当局の攻撃によって組織破壊・組合分裂を伴うものだけに、たたかいと運動は一層困難で厳しいものとなっている。しかし仲間たちは、アルバイト等による自活の道を決意し、積極的に運動と共闘の輪を拡げ、勝利への道を切り拓きつつある。それは、「行革」攻撃とたたかうわれわれ自治体労働者に勇気と展望を与え、運動の教訓を示すものとなっている。

国会付帯決議やすべての地労委命令を無視した国家的不当労働行為に対し敢然とたたかう国鉄清算事業団・JRの仲間たち、八六名の指名解雇撤回を粘り強くたたかい地労委命令を目前に控えた全国金属機械・日本抵抗器支部の仲間たちなどの闘争勝利のために、われわれ自治労は、各産別・地域の労働者と手を携え、協力し、組織の総力をあげて支援を強めるものである。

右、決議する。

一九九〇年四月五日

チャールズⅠ世の処刑

——衆院総選挙で考えたこと(一)——

社会党公認四八名では

全国の開票状況を刻々と知らせるテレビも岡崎当選が出るまでは、気にも止まらなかった。「岡崎当選」。最後の五議席目にすべりこんだ時、やっと他所はどうかと見る余裕が生まれた。それほど視野狭窄症に追いこまれていた。実際、公認も推せんも党中央から与えられない中では、新聞の伝える社会党支持率アップも興味を失っていた。

ただ、全国の状況は統計など素人の私にも予測はついた。劣勢を伝えられる公五〇、共二〇、民二〇と見れば九〇、これに社民連四、進歩一を加えても九五。二五七―九五―一六二 これだけを社会党が埋めなければ、逆転はない。社会党公認一四八―推せん一〇では、はじめから逆転など考えられない。

マスコミと自民党は、このような計算の成り立つ中で、逆転すれば下野、体制選択論を吹聴してまわったのであり、伯仲を期待しながらも逆転まで望まぬ層の大量取りこみに成功した。まさに踊らされた者が馬鹿をみたというのが今回の自民安定多数確保という結果ではなかったろうか。

いずれにせよ、石橋元委員長の一八〇名擁立つぶし、連合からの横槍の中で複数擁立が次々と挫折させられていったところに、今回の選挙結果は規定されていたのである。

兵庫一区に社会党前進の芽

そして兵庫一区の社会党「分裂」選挙も、この複数擁立をめぐる全国の努力の一つにすぎない。しかし、兵庫一区の問題は決して地方の特殊な問題ではない。今後、連合による社会党の乗っ取りは全国各地で試みられるだろう。そして、連合の思い通りには、すまないことを、まず兵庫一区で実証できたことは、全国の社会党を守る人々に勇気を与えたのではないだろうか。

とはいえ、心身を使い果たするような消耗戦であった。消費税廃止と結びついた土井社会党ブームの中、複数擁立をつぶした側が党公認を得、たいした選挙運動もできないにもかかわらずトップ当選をかざり、複数擁立にむけ筋を通した側が公認はおろか推せんさえ与えられず、無所属で闘わねばならない。県本部を連合に乗っ取られたら、まず左派は公認はもらえないということだ。土井つぶしも平気な連中が、土井ブームの風だけは存分に利用するのである。

統一地方選が正念場

だが、この事態を憂うるだけでは、何も解決しない。県本部直轄支部への兵教組・全電通からの労組入党を上まわる総支部建設がなければ、来年にひかえた統一地方選挙も、次の参院選も、連合が「社会党」を名乗り、社会党員が「無所属」となる構造は変わらない。

社会党のまわりにいる良心的支持者・活動家に大胆な入党を呼びかけ、社会党の危機を救うため、力を貸してもらわなければならない。総支部が党員を増やせば、連合もそれに応じて労組入党を増やしてくるであろう。

それでは何も変わらないではないか？ 否。これまでは、どちらかと言えば、総支部建設は停滞していた。そこで、労組入党による党への介入をいとも簡単に許してしまった。

その総支部建設が動き始め、来るべき統一地方選の戦闘態勢が強められてゆくのは、連合側にとっても脅威となる。いずれによせ、地方選で決着をつける力を今からつけてゆかなければならない。地方選挙は、国政選挙ほどには、党公認の風は吹かない。地域密着型の党建設を進める側には有利な戦場だ。

それに、今度は、岡崎選挙のように、一ヶ月で何もかもやってしまうのではなく、一年の準備期間がある。社会党兵庫県本部の民主化は、この一年間にかかっている。

“岡崎つぶし”で有権者に混乱

岡崎ひろみ候補の得票はどこから出たものなのだろうか？ 社会党の固定票のどれほどが岡崎候補にまわり、他党票のどれだけを食い、どれだけの浮動票を引きつけたのか？ さっぱりわからない。

灘総支部では、これまでの社会党支持票をかなり押えたつもりではあったが、労組選挙・電話選挙の党公認候補に五五六票、得票率で〇・八三％負けてしまった。だから社会党票のどれだけを押えられたのか？ わからなくなるのである。

ただ岡崎候補が共産党支持票にくい込んでいることは実感できた。バス停前のスボットピラまきで「ささやき」をしていると、おばさんから「うちの父ちゃんは、これまで共産党やったけど、今度は岡崎さんや」と向うから話しかけられた。

また、ターミナルの朝ピラをしていると河上（前衆院議員）支持者と名乗る老婦人が「ちよっとお伺いしますけど、社会党は今度一名当選させようとしているんですけどですか？」と質問して来た。「一名当選で消費税をぶっつぶそうとしているんですよ。」と答えると、「どうもそうと違う電話がかかってくるんです」と困惑の様子だ。ピラまきの手を止めて説明するとやつと納得され、「ピラまきを止めてごめんなさいね、頑張つて」と激励された。県本部側が岡崎つぶしの電話を入れ、支持者に混乱が生まれているのだ。党支持者に、ていねいに話しこめば、わかってもらえる。しかし、圧倒的に活動家の数が、時間が不足していた。

新しい支持者固め

総支部建設が進んでいるとされる灘区での得票率は一五・一％で岡崎選対の中ではトップだったが、先にも書いたように公認候補は、労組名簿と、ダイレクトメールと、電話作戦で「唯一公認」を売りものに我々の上を行った。

同様の傾向は、岡崎選対の中にも見出すことができる。総支部もない。カードもない。いるのは右派の長老市会議員のみという最悪の条件下で西区では、灘区に次ぐ一四・五％の得票率を稼いだのである。

灘では堅実に一票一票を固めるオーソドックスな選挙ができるし、そうするものだという習慣がついている。しかし、先の参院選からの社会党への支持は、旧来の倍になっており、新しく増えた支持層については、我々はほとんどつかみ得ていないのである。労組から上ってくる豊富な名簿をもとに公認候補側は電話・労組機関紙のダイレクトメールで接触しているが、こちら側は当れていない党支持者が、今までの支持者と同じだけいたのであるから、雲をつかむような話ではあるが、ここに切りこむことなしには、公認候補を上まわることはできないということであろう。

逆に、片端から当たった西区では、電話とモーターで票を引きつけることに成功した。統一地方選を準備する中で、この新しい支持者の発掘作業・支持固めをしていかなければならない。だが、新しい支持層への切り込みが不足していたとはいえ、岡崎ひろみ候補は、新しい活動家をひきつけ、我々の知り得ぬところで、熱心な支持拡大運動がくりひろげられていた。その結果、これまでにくらべ一割ほど紹介カードは増えた。これまでの選挙では、支持者相互に紹介し合うパターンが定着しており、新規開発はほとんどなくなっていたのであるから、これは貴重な拡大であった。

兵庫一区の他党のことにもふれておこう。

自民党の二候補の票割りのうまさには舌をまく。北区で少し差が出たものの、残る八区をほとんど半々に分けている。競い合う中で生まれた地合いが、絶妙のバランスを作っているのであらうか。また逆転、下野の脅迫の中で、参院選で離れた中小工商业者の票は一旦揺り戻ったと見てよいだろう。

民社党は、除名された元県議の出馬もあつて、連合から推せんをもらったにもかかわらず、大幅に票を減らした。落選後候補者は政治生命の終りを宣言した。もし次回以降、候補者が擁立できないということにでもなれば、この票は自民党と社会党右派に流れることになるだろう。

公明党は、投票率アップの中で、得票数を維持できず、前回より減少している。兵庫四区の新人候補の応援に力を注いだということで兵庫一区ではろくに運動しなかったからかもしれないが、四区では議席を引き継ぐことができなかった。この党も、頭打ちから減少へ転じ始めたということだろう。

共産党は、活動家に元気がなかった。東欧問題は、党員自身にひびいているのだろう。チャウシェクとの反ソ統一戦線が、こんな形で効いてくるとは、予想外の展開となったのではないだろうか。総選挙後のラジオ討論会の中で、東北のある県では最終盤になってポスターから共産党名を隠したという報道があったが、もし、これが事実であれば、相当なダメージを受けていたということであらう。「唯一正しい」党中央も筆の誤り、木から落ちるとあつては、形容詞が邪魔をする。

さらに、社会党の分裂選挙で有利と見たのか、一区の活動家を二区に増援する作戦を取った。これも裏目に出たようで、結果は一区二区ともに次点で落選となった。

再度、社会党内に眼を向けて見れば、土井委員長への配慮に感謝するものである。というのは、土井ブームの中で社会党公認とは、土井委員長の認める人を意味する。公認候補はこの利点をフルに活用し、岡崎落としに使うとしたが、二度の来神中二度とも、土井委員長は街頭での公認候補応援という形をとらず屋内集會に止めてくれたのである。

この様に、岡崎ひろみ候補の当選は、まさに薄氷をふむ勝利だったのであり、たとえば投票日の翌日は雨となったが、この雨雲がもし一日早く到来していたならば、五位にすべりこめたかどうか。この当落すれすれの状況が我々の今の実力なのである。

ただ、兵庫一区に見る限り、連合推せん候補二名の得票は、一八万三五であるから折半すれば岡崎ひろみ候補の得票九三、〇六五を下回ってしまう。

連合推せん候補の二名当選で、岡崎ひろみ候補をけ落すことは、できなかったということもまた、我々の今の実力なのである。

「自信を持ち、かつ驕るなかれ。社会党民主化に邁進せよ。」これが選挙民の与えた支持であり指示でもあったと思えてならない。

(つづく)

◆読者からのおたより◆

心のスローガン 「職場で労働組合運動を」を心のスローガンにしていますが、実践となると難しいですね。

(鹿児島 T・O)

「連合II産業報国会」 私は貴社の「連合II産業報国会」という分析に立っています。

貴誌を批判的に購読させてもらいます。「一歩行きすぎて真理から遠ざかる」(埼玉・I)

編集部より 官民統一で連合の雰囲気は大きく変わったように思います。官と民の融和は困難な課題のようです。参院選、衆院選での山岸会長の言動、九〇春闘でのJICと私鉄等の構図。連合も内部の統一を維持するのは容易でないようです。ぜひ、ご意見等お寄せください。

重要ポストに仲間 誌代、遅くなってすみません。時代も流れているのか、この地の地区センター役員の議長をはじめ、重要ポストに仲間がなりました。今まで排除され、差別されてきたことを思うと嘘のようです。

(K)

公民にすり寄るな 月刊社会党四月号に「水」に関する記事を書きました。読んでいただければ幸いです。これからは党と市民運動の連携がむずかしい状態を招くようですが、社会党の主体性を確立し、あるべき方針を確定しなければなりません。兵庫一区の岡崎さんを早急に議員団に入れるべきです。公・民にすり寄る社会党でなく、国民から支持される党建設を。

(埼玉・T)

日共系より奪還 目まぐるしい社会情勢の変化にたいし、いつも最新の分析をしてくれる貴誌のありがたみを感じています。北教組もとうとう日本共産党の分裂攻撃にありました。しかし渡島支部は二十八年ぶりに執行部十二名を完全勝利で、日共系より奪還しました。私も一般執行委員として四月より、その中でがんばっていきたいと思っています。

(北海道・M)

暴れ放題の資本主義 「階級および階級闘争」というものが国内外を問わずよく見えます。しかし資本主義は職場の中で暴れ放題です。展望は科学的社会主義の目でしか拓けぬのでしょうか。マルクス、レーニン、向坂先生達の思想をコツコツ学び続ける覚悟です。

(大分・E)

なんとしても勝つ 私たち音威子府清算事業団においても三月末の再解雇攻撃等の中でも、四月以降の不安等、悩み苦しみを討論しとおし、なんとしても「首切り」を撤回させるまで闘い続ける決意を固め合うべく討論を積み重ね、闘いを進めています。みなさんの支援、連帯をさるによりしく願います。

(北海道・S)

「勝利」にも不安 衆議院選挙で社会党が前進しましたが、必ずしも勤労国民の期待に応えたものではありませんでした。職場から地域から大衆運動をつくりあげ、真に働く者が主人公である政策や運動ができる社会党にしていこう努力がもっと必要です。

(横浜・Y)

党の右傾化が心配 総選挙で社会党はたしかにのびましたが政変はなく、社会党の責務はますます重大です。同時に、社会党の政治路線がさらに右傾化することが心配です。社会主義への展望を切り拓くためにも、貴誌のご奮闘を期待しています。

(大牟田・K)

当選できず残念 北海道五区、保格でがんばりましたが、当選までいきませんでした。これから春闘を含め首長選も行なわれ、さらに清算事業団闘争に向けてがんばっていきましょう。

(帯広・S)

燃えに燃えた選挙闘争 兵庫一区の岡崎宏美の当選は、久しぶりに燃えに燃えた選挙闘争の結果でした。選挙期間、数回の参加で私たちの喜びもひとしおです。この気持ちを国鉄闘争等、職場の合理化反対闘争につなげたいと思っています。

(豊中・I)